

特集

脳性麻痺の歩行機能改善をめざした治療

脳性麻痺（cerebral palsy；CP）は、脳卒中などと比べれば圧倒的に少数であり、日ごろの診療でかわる機会は少ないかもしれませんが、しかし、早期発見・療育の段階から、加齢などによる二次障害の発生にいたるまで、数十年にわたる長期間のモニタリングが必要な点は先天障害に特徴的であり、われわれにとって重要な対象のひとつであると考えます。今回の特集では、CPの下肢機能（歩行機能）に焦点を当て、リハビリテーションや整形外科的治療について、そのポイントと課題を論じていただきました。一部重複する評価法や引用文献などもありますが、読み応えのある特集となっています。じっくりとお読みください。

脳性麻痺の現状と歩行機能に対する治療 芳賀信彦氏……………95

CPの発生率は0.2%前後で推移している。以前と比べてアテトーゼ型が減り、痙直型両麻痺が増加していると考えられる。CPの歩行機能改善をめざした治療は、患者の重症度に応じた適切なゴール設定に基づき行われるべきである。歩行機能の予後予測を行うための研究結果や機能維持・改善を目指した治療体系について解説いただいた。

痙縮コントロール 水落和也氏……………99

痙縮の定義や評価方法について詳細に述べた後、自験例を中心とした髄腔内バクロフェン（intrathecal baclofen；ITB）療法、ボツリヌス療法、選択的脊髄後根切断術の実践結果が示されている。痙縮コントロールは種々の治療を適切に併用することが重要であり、慎重になされるべきである。

ニュース	障害者差別解消法、合理的配慮の事例集—内閣府が検索サイト立ち上げ……………125
	「ノーマライゼーション 障害者の福祉」12月号・特集目次……………125
	65歳問題、障害者の負担9倍—介護保険移行で（厚生労働省中間報告）……………131
	障害児医療費、県が窓口無料検討……………139
	施設の耐震化83%—防災拠点の調査で（消防庁）……………145
	重症児の医療ケア地域で、県、体制整備乗り出す—開業医や訪問看護師、研修受け在宅支援へ……………160
	民間企業で働く障害者45万余人……………160
	補聴器でも2種免許—道路交通法規則改正で来年度から……………160

装具療法 問川博之氏.....107

麻痺のタイプに応じた歩行機能改善のための下肢装具の選択について述べられている。装具療法の効果についてはエビデンスレベルが低い報告が多い。対象や装具デザイン、方法論などを適切に記述した報告が集積されることが期待される。

手術療法 瀬下崇氏.....113

歩行機能改善のための治療は、単独ですべてを改善できるほどの治療はなく、複数の治療を組み合わせることで効果を高めることができる。整形外科的手術と選択的後根神経遮断術を中心に、各種治療の選択や実施時期などを解説いただいた。

理学療法 大畑光司氏.....119

CPの歩行機能改善には課題特異的な歩行トレーニングが重要な役割を果たす。基本的歩行パターンとその分析の解説、パターンの特徴の介入目標と方法についてまとめられている。主要な問題点の性質の理解が、効果的な理学療法において求められる。

お知らせ 第39回日本顔面神経学会.....145

男女の骨盤底筋群の機能および機能不全に対する腰椎-骨盤-股関節の関係セミナー.....159